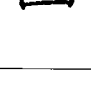
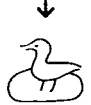


西

二年

画数 6
 筆順 一 一 一 一 一 一 西 西
 オン セイ・サイ
 フン にし

成り立ち



とりがすに入っているすがたをあらわした字です。とりはお日さまが「西」のそらにせずむころになりますとすに入ります。それで、「とりがすに入っていること」で「にし」ということばをあらわしました。

〔西については諸説があるが、いずれもすつきりしない。甲骨文や金文から、「酒などをこす道具」の形としての仮借である、という説が有力であるが、私には納得できない。「鳥が巢に宿る形」としたのは説文である。篆文から察すれば、最も納得できる、最も古くからの説である。〕

使い方

▽京都より西方にあるちほうを西国といいます。とくに九州地方をいうことがあります。むかし、この地方を西海道といったからです。

▽ヨーロッパの国々を西洋といいます。これはアジアの国々を東洋といったのにたいしていったものです。

熟語例

▽西方(西の方。西の方がく)

▽西国(西の方の国。関西地方のこと。また、九州地方のこと。)

▽西海(西の方の海。また、むかし、西海道とよばれた九州地方のこと。)

▽西洋(アジアの国々を「東洋」というのにたいして、アメリカやヨーロッパの国々のことをいいます。)

▽西欧(欧は欧州でヨーロッパのこと。イギリス、フランス、ベルギー、オランダなどの西ヨーロッパの国々のことをいいます。)

▽関西(むかし、逢坂の関から西を関西といいましたので、京都、大阪地方のよび名になりました。)

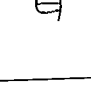
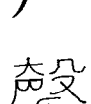
▽泰西(西洋とおなじいみのふるいいかた)

声

二年

画数 7
 筆順 一 一 一 一 一 一 一 声
 オン セイ・シヨウ
 フン こえ・こわ

成り立ち



「聲」という、たたいて音を出すがつきのかたちをあらわした字で、「おと」といういみをあらわしたものです。が、「こえ」をあらわした「音」という字といっしょになり「音声(こえやおと)」というじゆくごとしてつかわれているあいだに、音が「おと」になり、声が「こえ」となってしまうました(「音(伴1)」参照)。

いまでは「こえ」のいみにつかわれます。「こわ」は「声色」のように、じゆくごとしてつかわれるときに、「こえ」がへんかするものです。

〔「夜半の鐘声」を「鐘のこえ」と解するのは誤り、これは「鐘のおと」である。また、「美音の主」は「美しい「こえ」の主」である。〕

使い方

▽声帯(はいから出される空気ですんどうして出る音。声といえます。)

▽おなじ声でも、マイクをとおした声と肉声とはどこがちがっています。

熟語例

▽音声(音や声。また、「声」のこと。声は「声帯がしんどうして出す「音」です。)

▽肉声(きかいをとおさない声。人げんの声帯からちよくせつ出る声。生の声)

▽声楽(声による音楽。「歌」のこと。)

▽声量(声の量。声の大きさ、ゆたかさのこと。)

▽声優(ラジオやテレビまんがなどで、声だけでえんぎする俳優。声だけの俳優)

▽声望(名声。と人望。よいひょうばん)

▽名声(名誉ある「きこえ」。よいひょうばん)

▽声明(じぶんのかんがえをおおやけにはっぴようすること。せいふが、せいじ上のいけんをおおやけにする。ことをいうのによくつかわれます。)